

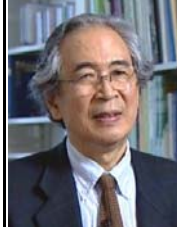
GWIN演者紹介(講演順)

	<p>浅野 孝 カリフォルニア大学 デーヴィス校 名誉教授</p>	<p>水循環・水の再利用分野における世界の第一人者として多く国際機関等で技術アドバイザーとして活躍。1981年－2002年カリフォルニア大学デーヴィス校教授。カリフォルニア州水資源管理局の水高度利用管理官を兼務。2001年、水のノーベル賞といわれるストックホルム水賞受賞、2009年、在外邦人として最高位の瑞宝重光章叙勲。本シンポジウムでは、水危機の状況と、それを解決するために期待されている技術について基調講演。 講演題目: <i>"Looming Water Crisis and Prospects for Innovative Solutions"</i> (「水危機とその革新的解決への期待」)</p>
	<p>マイケル・ウェーナー (Michael P. Wehner) カリフォルニア州 オレンジ郡水道局 副局長</p>	<p>2008年に稼働して始めたカリフォルニア州オレンジ郡の世界最新鋭水再生施設(OCWD)は、1日あたり約26.5万立方メートルの水を都市排水から製造し、2.3百万人に間接的飲用水として供給。演者は同施設の建設に技術系のトップとして関与。今回はOCWDの建設の意義とその技術内容が我が国で初めて紹介される。水質管理が専門で、他地域の浄水機関のアドバイザーとしても活躍。本シンポジウムでは今後の技術ニーズについて水処理現場の第一線の技術者の視点で展望。 講演題目: <i>"Water Supply Challenges Require New Technologies"</i> (「水供給に必要とされる新技術」)</p>
	<p>阿部晃一 東レ(株) 常務取締役 水処理・環境事業本部 本部長</p>	<p>東レは水処理膜で世界のトップメーカー。演者はフィルム構造設計の専門家であり、マネージメントにおいてもフィルム研究所長、研究本部長、基礎研究所長等を歴任後、現在、水処理・環境事業を本部長として統括。本シンポジウムでは、東レのナノテクノロジーへの取り組み、環境・水・エネルギー領域における課題、ナノテクノロジーを駆使した研究・開発事例、特に、水処理膜について“ナノテクとの技術融合”が紹介される。 講演題目: <i>"水処理における技術革新－ナノテクとの技術融合を中心に－"</i></p>
	<p>青木伸浩 メタウォーター(株) 開発センター 先端水システム開発部 膜開発グループ マネージャー</p>	<p>メタウォーター(株)は2008年に(株)NGK水環境システムズと富士電機水環境システムズ(株)の合併で発足。耐久性に優れるセラミック膜の大型化を行い、浄水処理に適用展開。本シンポジウムでは、セラミック膜が浄水処理分野だけでなく、水処理分野全般に応用されている状況が紹介される。演者は膜分離技術の第一線技術者として活躍。 講演題目: <i>"セラミック膜ろ過システムの上下水分野への適用"</i></p>
	<p>北見勝信 栗田工業(株) 開発本部 装置開発第一グループ 第一チーム チームリーダー</p>	<p>栗田工業(株)は半導体生産において不可欠な超純水製造の世界のトップメーカー。本シンポジウムでは、ますます精緻化されつつある超純水製造の状況、特に、ナノテクノロジーが、混入する超微量成分の除去あるいは高感度分析に有効に使える可能性が紹介される。演者は超純水製造、分析技術の第一線技術者として活躍。 講演題目: <i>"超純水製造および分析評価技術の現状と今後の課題"</i></p>



小林剛士
 (株)堀場製作所
 海外本部海外営業部
 環境・プロセスチーム
 チームリーダー

水質測定は水関連の基本技術の一つとして世界各地の多様なニーズに即したセンサーの開発が求められている。堀場製作所は環境関連センサーの世界的なトップメーカーであるが、本シンポジウムでは、同社がそれらのニーズにどのように対応してきたか、特に途上国のニーズへの対応例が紹介される。演者は日本水環境学会の平成12年度技術賞を受賞、水質検査の第一線で活躍中。
 講演題目：「世界の水質計測の課題と その解決提案」



青柳克信
 立命館大学立命館
 グローバルイノベーション研究機構
 特別招聘教授

理化学研究所、東京工業大学における半導体工学研究の長年の実績を生かして、現在エレクトロニクスを環境問題に役立てる「エコロニクス」の確立に向けて研究を展開。演者は高出力紫外線発生LEDを設計し、エネルギー効率の良い水殺菌への展開を試みている。
 講演題目：「高出力深紫外半導体光源の開発と新しい水浄化システムの提案」



松井三郎
 京都大学
 名誉教授
 松井三郎環境設計事務所
 代表

世界の湖沼・河川水質、水道・下水道に関して事情を理解している我が国の第一人者。また、環境ホルモンをはじめとする人為的な化学物質による水汚染の問題にいち早く取り組み、警鐘を鳴らしている。本シンポジウムでは、内分泌攪乱物質その他微量汚染物質の環境リスクについての全体像と対応の必要性が紹介される。なお、サテライトシンポジウムにおいては冒頭の話題について総説講演。
 講演題目：「人為要因による新しい水汚染の状況」



マーク・シャノン
 (Mark A. Shannon)
 イリノイ大学アーバナ・シャンパン校
 教授
 WaterCAMPWS所長

WaterCAMPWSは、ナノ材料を用いて水問題を解決する目的で全米科学財団(NSF)が設置した研究センター。複数の大学、国立研究所が参画。演者はWaterCAMPWS所長で、2008年、米議会下院委員会において水関連の基礎研究の必要性を証言。本シンポジウムでは、水質検査、浄水等にナノテクが今後どのように生かされていくかを紹介。なお、サテライトにおいてはWaterCAMPWS設立に関する科学技術施策的背景を紹介。
 講演題目：「Advances in Material Science Enabling Nanotechnologies for Sensing, Separation, and Treatment Methods for Clean Water」(「上水の検査、分離、処理方法のためのナノテクノロジーを可能にする材料科学の進歩」)



松井敏樹
 戸田工業(株)
 創造本部
 機能性材料開発グループ
 課長

トリクロロエチレン(TCE)等の揮発性有機塩素化合物(CVOC)で汚染された土壌・地下水の浄化技術の一つに、鉄粉還元法(還元的脱塩素分解法)が知られている。戸田工業は、CVOCおよび重金属類で複合汚染した土壌・地下水を、多層構造のナノ鉄複合粒子(RNIP)を用いて原位置で急速浄化できる画期的なシステムを開発した。今回は、このRNIPの特長とこれを用いた現場試験例等について紹介する。尚、本RNIP技術は本年2月のnano tech 2009 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議でグリーンナノテクノロジー部門賞を受賞。
 講演題目：「ナノ鉄複合粒子による土壌・地下水浄化」



前一廣
 京都大学工学研究科
 化学工学専攻
 教授

演者の専門は反応工学で、環境プロセス工学講座を担当するほか、京都大学大学院 地球環境学堂副学長として地球親和技術学廊を主宰。本シンポジウムでは、安価なオキシ水酸化鉄を素材に、ナノ構造を制御して、アニオン類を選択的除去できる実用性の高い材料を開発した研究について、琵琶湖での工場排水処理への応用事例を含めて紹介。
 講演題目：「アニオン類を除去・回収するオキシ水酸化鉄ナノ構造材」